

メールマガジン 埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.295 2020.1.10

県議会テレビ番組「こんにちは県議会です」
1月1日(水曜日)放送「新春インタビュー」
(神尾高善議長・新井豪副議長)

皆さまいかがお過ごしでしょうか。
2020年を迎えました。本年もメールマガジン埼玉県議会をよろしく願
いいたします。

県議会広報テレビ番組「こんにちは県議
会です」(テレビ埼玉)では、各定例会の
模様など県議会に関するさまざまな情報
を放送しています。

今号のメールマガジンでは、ご覧になれ
なかった方のために、1月1日(水曜日)
に放送した「新春インタビュー」(神尾議
長・新井副議長)の内容をお伝えします。

次号は「新春インタビュー」(主要会派代表者)をお届けします。ぜひご
覧ください。



[☆放送スケジュールなどは、県議会のホームページからご覧になれま
す。≫](#)

INDEX



県議会広報

〈こんにちは県議会です「新春インタビュー」〉

- ・神尾高善 議長
- ・新井 豪 副議長



議事堂の花

生け花のご紹介



県議会広報

【こんにちは県議会です「新春インタビュー」】

◆神尾高善 議長◆

議長 県民の皆さん、あけましておめでとうございます。

県議会議長の神尾高善でございます。本年もまたよろしくお願いいたします。



—今日は、県立深谷商業高校記念館をお借りしてのインタビューとなりました。こちらの学校の創立に関わった渋沢栄一がNHK大河ドラマの主人公に選ばれ、また、新一万円札の肖像に決まるなど、今、日本中から注目されていますね。—

議長 近代日本経済の父と言われる深谷市出身の渋沢栄一翁は、「道德経済合一説」を唱え、日本初の銀行をはじめとする約500もの企業の設立に関わるなど日本経済を導く一方、福祉事業にも熱心に取り組み、時代の根幹を築き上げました。現代社会は自分の利益を優先しがちですが、令和の新しい時代を迎え、渋沢栄一翁の考え方が改めて見直されてきているのではないかと考えております。



—「経済」と「道德」は両立しなければならないという考え方ですね。—

議長 少子高齢化や人口減少など、われわれは今まで経験したことのない、前例のない時代に直面しております。社会全体を良くしていくためには、自分さえ良ければ良いという考えから脱却する必要があると思っております。社会的な立場などに違いはあっても、互いに手を取り合って一緒に生きていきましょうという姿勢が大切だと考えています。

—議長にとって昨年はどうのような一年でしたか。—

議長 平成の時代が終わりを迎え、令和の新時代の幕が開いた、まさに日本の歴史の新たなページが刻まれた節目の年に、県議会の代表として活動させていただいたことは大変光栄なことだと思っております。

また、時代の変化の中で、若者を中心に自分の生活は自分で守るという意識が強くなっているように感じています。県議会といたしましても、県民の皆さんが関心を持てる、身近な議会にしていかなければならないと改めて感じた一年でありました。

—身近な県議会の実現のためには、どのようなことが必要だとお考えですか。—

議長 やはり、議員一人ひとりが地域に密着した活動をするのがすべての土台になると思います。私たち議員は、さまざまな方法で、活動報告など県政に関する発信をしていますが、それだけでは受け手である県民の皆さんの本当の姿が見えてきません。例えば、事業を進めるにしても、やって終わりではなく、その効果をしっかりと検証しなければなりません。それと同時に、県民の皆さんに安心・安全を提供するためには、自分で常に現場に立ち、皆さん一人ひとりの声をしっかりと受け止めることが最も重要だと思っております。

—議長は、現場の声を聴くことを大切にされているのですね。—

議長 県民の皆さんの思いをしっかりと理解しなければ良い県政運営はできません。昨年は台風によって、本県にも甚大な被害がありました。被災された方々に一日でも早く安心を取り戻していただくための施策を実行していく上でも、皆さんと同じ目線に立ち、思いを共有し、理解することがわれわれの役目であり、責任です。

また、議会と執行部が県民のために議論を深め、意見や考えがまとまったら一致協力し、スピード感を持って物事を前に進めることが今の政治には求められると考えております。

—議長として臨まれたお仕事の中で、特に印象に残っていることはありますか。—

議長 埼玉県議会の代表として、多くの行事や会議に出席させていただきました。各都道府県議会の議長をメンバーとする議長会では、地域の発展に向けた施策の検討や国への要望、提言について、さまざまな意見交換を行ってまいりました。



そして何よりも、本県も会場となった昨年のラグビーワールドカップでは、選手が審判や相手選手に対して敬意を持つといった精神が多くの観客に感銘を与え、それが結果として大会の大成功につながったと強く感じました。

—ラグビーワールドカップでは日本中が熱気に包まれました。いよいよ、今年は東京オリンピック・パラリンピックですね。—

議長 本県も4カ所が会場となっております。大会を盛り上げるためには、県民の皆さんの熱いサポートが何よりも必要です。国内外から埼玉を訪れる方々との交流やボランティアなど、さまざまな形でオリンピック・パラリンピックに積極的に参加していただきたい、そして楽しんでいただきたいと思っております。

—年頭に当たって、抱負と決意をお聞かせください。—

議長 県民の皆さんが安心・安全に暮らすことのできる埼玉県を実現するため、二元代表制の一翼を担う議会の代表として、公正・公平で、的確な議会運営に努めてまいります。今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

◆新井 豪 副議長◆

副議長 県民の皆さん、あけましておめでとうございます。副議長の新井豪です。

この令和2年という年が皆さまにとって素晴らしい年となりますよう、お祈りいたします。本年もよろしくお願いいたします。



—昨年は副議長に就任されて、お忙しい一年だったと思います。振り返っての感想をお聞かせください。—

副議長 令和という時代が変わったことをはじめ、いろいろなことがありました。日本中に感動を与えたラグビーワールドカップという一大イベントに携

わったり、また、大きな災害に直面するなど、とても濃い一年だったと感じています。

—ラグビーワールドカップでは日本中が盛り上がりましたね。—

副議長 私は開幕前のカウントダウンイベントから参加させていただきました。イベントを重ねるごとにムードの高まりを感じました。熊谷での初戦も現地で観戦したのですが、ラグビーワールドカップという素晴らしい大会がこの埼玉・熊谷の地でもキックオフした、その瞬間はとても感動しました。これほどまでに日本中が注目する大イベントとして成功したことを非常にうれしく思っています。多くの皆さん、特に子どもたちの心に大きなレガシーを残せたのではないかと感じております。

—ほかに印象に残っていることはありますか。—

副議長 8月に「埼玉応援団大集合」という、東京で開催された埼玉県人会に県議会を代表して参加いたしました。県人会の皆さんや、また全国で活躍する埼玉ゆかりの政財界の方々など数百人が一堂に会しまして、「これからの埼玉をもっと発展させていこう」という思いを全員で共有できたことが、とても感慨深かったです。



また、10月には台風19号が上陸して、県内にも甚大な被害をもたらしました。県議会では台風が直撃したその日に災害連絡本部を設置し、私はその副本部長として情報の収集や伝達に当たりました。これも印象に残ったことの一つです。

—このところ、予測できない規模の自然災害などが発生していますね。—


副議長 9月には現在CSFと呼ばれている豚コレラが県内で発生しました。超大型台風、豚コレラなど、こうした想定外の災害に対応するためには、これまでの経験にとらわれない対策や体制づくりを進めていかなければならないと痛感しました。私自身も地元で消防団員を務めたり、また防災士の資格も取得したのですが、われわれのように行政や政治に携わる者はそれぞれが防災の専門家になって、県民の皆さまに正しい情報をお伝えすることが非常に重要であると改めて感じています。

—情報発信をすることは、議会の大切な役割でもあるのですね。—

副議長 ラグビーワールドカップに関しても、積極的な情報発信によって成功につながったと考えております。今年の夏にはオリンピック・パラリンピックがあります。本県でも四つの競技が開催されますが、しっかりと情報発信をしていかなければならないと思っています。さらに、今撮影をしているここ、深谷商業高校にもゆかりのあるわが県が誇る偉人、渋沢栄一翁の功績についても、特に子どもたちにしっかりと伝えていきたいです。

—今後の抱負をお聞かせください。—

副議長 県議会には、県民の皆さまの声に耳を傾けながらしっかりと議論を深めて結論を導き、その情報や効果を県全体に伝達することが求められます。この責任ある役割をしっかりと果たして、南北格差のない埼玉県にするべく、今年も神尾議長と共に議会運営に全力を尽くしてまいりますので、県民の皆さまには、引き続き県議会に対するご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

[▲トップへ](#) **議事堂の花**

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



◆展示期間

12月16日～12月20日

◆作者

成月流 半井梨芳様

◆花材

サンゴミズキ、ルスカス、アマリリス、カーネーション、タラテナ

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈成月流 半井梨芳様〉

Q:タラテナの生き生きとした緑とアマリリス、サンゴミズキの赤の色使いで明るいイメージの作品ですね。

A: 緑と赤の配色でクリスマスを意識させる冬らしい作品にしました。ポイントは淡いピンクのカーネーションです。白ではなくあえて色を付け、アクセントを与えました。

Q: サンゴミズキの枝の染まり方がきれいですね。

A: 黄色味がかかった部分から深い赤の部分にかけてのグラデーションが目を引きました。真っ赤なアマリリスとのコントラストなど、自然の生んだ美しさを楽しんでください。

☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。≫

[▲トップへ](#)

【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから](#) 》

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会議事事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257 / FAX 048-830-4923

© 2008 Saitama Prefecture All Rights Reserved. 無断転載を禁じます。

